midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

June 2012 No.330-331

６月号の１枚：体験学校の一コマより

［巻頭言］ 林政史に学ぶ

経済至上主義の毒に犯されて人間は自然の摂理から外れた

15年間の森林NPO活動の中で、林業の現場と地域林政の矛盾を体験して様々な疑問に遭遇した。そこで、国林政の方向を知りたいと昨年１年、東大大学院・林政学研究室で戦後林政を学んだ。

戦後の復興期から高度経済成長時代は、二次産業拡大政策を取った。結果、森林では過伐が起こり、針葉樹への拡大造林に転換した。戦中の火災経験と鳥取大火災（昭和27年）等が引き金で耐火建築促進法が制定され、経済復興には貢献したが、その後の木材利用にはマイナス影響を与える事になった。国産材不足から輸入材時代が来て国産材・価格低迷期に入ると森林所有者は、人工林の手入れをしなくなり森林荒廃が始まる。戦後林政は、時代の流れに翻弄されているように見える。戦後林政を学んで益々、訳が分からなくなってしまった。

徳川幕府は「山川掟」を出し草木の根を掘ることを禁じ、苗木を植える事を促した。諸藩も留山（伐採禁止森林）を定め、輪番制度を作り盗伐は死罪とした。「国の宝は山也…山の衰えは則ち国の衰え也」と。徳川幕府の威令は諸藩を良く統率し、伐採道具から運搬方法、流通、樹種ごとの用途、建築指導は極めて具体的で自然との関わり方を熟慮して森林を守っていた。

現在、山梨県の甲斐檜（ヒノキ）が、岐阜県・東濃檜に化けて高値で取引されている。神奈川の杉が名古屋（小牧木材市場）で紀州杉として立米8万円で取引されている現場を見た。経済至上主義＝貪欲（何でも自由になると錯覚している金儲け）の毒に犯されて人間は、自然の摂理から外れて森林破壊と言う自らの墓穴を掘っている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.06

6月 3日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

6月17日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

5月6日（第一日曜日）

緑が濃くなり、森の中にも春の訪れを感じることができるようになった、5月の小原本人の定例活動は、Forest　Nova☆から5名が参加しました。4名は、以前から行っている経路づくりを行い、1名は、ガソリンなど必要物品を買いに行きました。前日に雨が降っていたせいか、足元は非常にぬかるんでいて、でも、以前から作った水路が生きていて、とても感動しました。

自分たちがのばしていた経路を進むのはとても感慨深く、いつのまにか長く長く伸びている経路に驚きました。現在、相当上の方まで経路を伸ばすことができているので、経路の先端に行くまででかなり体力を消耗してしまいます。

呼吸を整えてから、先月の続きから作業を開始しました。間伐してある木を経路沿いに運び、固めていきます。次に、ヒノキの成長を阻害するように斜めに生えていた広葉樹を伐る作業の手伝いに移りました。スギやヒノキでも掛り木してしまうような小原で、広葉樹の木を倒すのは難しく、案の定、左右に張った枝が周囲の木にかかってしまいました。細い枝が一本掛っているだけで、3人で引っ張っても負けてしまいます。どっちの方向に引っ張っていくのか、どういう風に鋸を入れるのかなど、力と頭脳、どちらも必要とする戦いでした。その場にいた全員で、力を合わせ、知恵を出し合いながら、ようやく倒れたところでお昼ご飯の時間となってしまいました。

お昼ご飯を食べた後は、どこまで経路を伸ばすのか、目標地点を見るために、尾根沿いを通り、孫山の頂上まで行きました。上がっていく途中、そこに道はないので、どういう風に経路を作るのかみんなで話しながら進んでいきます。どんどんあがっていくと、とてもきれいに整備されたハイキングコースとぶつかりました。私は入山入ってから1年がたちましたが、こんな道があったなんて知りませんでした。そして、頂上につくと、丸太のベンチが置いてあったり、たくさんの木の向こうにうっすらと相模湖が見えたりとてもいいところでした。

その後下山して先ほどの場所まで戻り、作業を開始すると、雲行きが怪しくなり、雷鳴が聞こえ、急いで拠点に戻ろうとしたとき、雹が降ってきました。ふだんではなかなかお目にかかることのできない「雹の降る森」を見ることができました。少し感動しましたが、さすがに痛かったです。

今回の活動で、経路を伸ばすことはあまりできませんでしたが、目標地点を見たことでやる気が高まり、広葉樹の間伐のむずかしさ、効率の良い経路の作り方などを学ぶことができました。来月からは一年生がやってくると思います。一年生が楽しめるように、そして、効率よく、安全に作業できるように心がけていきたいと思います。

望月　亜佑子（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

5月20日（第三日曜日）

新緑の5月、森の入口ガーデンでは生命力を見せつける夏草の勢い！。この日の参加者も、それに負けぬ活力あふれる森人たちが９１人集まった。

・生命の森宣言・東京（緑のダム体験学校参加）32名、高井戸中：18名、望星高：4名、フォレストノバ12名、都市大学（環境学科・咸研究室）14名、一般参加：11名。

・この日は、ボサ刈り、草抜きが作業の主流になったが、日本蜜蜂のお世話で江東区から2時間もかけて来る黒川さんは、分蜂の為の巣箱の手

入れに集中していた。
・中学生は、先月仕掛けたスズメバチトラップの回収の後、先月内野さん、斎藤さんが目印をつけていた幼木（イタヤカエデやヤマザクラの仲間にコナラ）を望星の森最上部に移植。ついに崩落した斜面全てに植樹を行った。初参加の１年生も急斜面に挑戦。帰宅してから家族に立つのも困難な斜面に植樹したと胸をはっていたとか。
・初参加の小泉さんは、相模原市商工会議所・都市産業研究会の会員で「緑のダム体験学校」を計画しており、その下見・検証を兼ねて参加した。

生命の森宣言東京は大々的な募集をかけ、体験学校。

森林環境保全活動の現場を多くの人々に、先ず知って頂きたいとの思いで、この度「森林体験見学バスツアー」を企画したところ、１５～７４歳の男女３２名が参加しました。３班に分かれ、緑のダムの各リーダーから森林の役割等、興味深く学び、午後は間伐木を１本選んで全員で伐倒を体験しました。

森の中は空気が澄んで気持ちが良い。樹の間から陽が差し込んで、下草が明るく風に揺れている姿は、生命（いのち）が輝いているようです。参加の皆さんから〝日頃の花粉症が出ません”，とか〝また来たいです“など、感動の声が飛び出していました。参加の皆さんに喜んで頂き本当に良かった。私の方こそ今後の活動に勇気と希望を頂きました。ご指導の緑のダムの方々、参加の全ての皆さま、深く感致します。
以上、 生命の森宣言・東京：佐藤武行さんからの報告。

伊藤小夜子（本会、会員）

さらに今月は救急講習も行った。

プロの林業者でも毎年、40人前後の人々が作業事故で亡くなっている。森林ボランテイア活動で前期12月、１月と連続して２名の死亡事故があった。当会では可能な限りの危険喚起、事故防止、事故発生時の緊急体制を敷いている。

今年は、元消防士にして救急資格保持者の地元の石井晃氏に森に来て頂いて、「(1)事故発生予防、(2)発生時の通報体制、(3)緊急・応急手当て」の3項目を指導して頂いた。ベテラン資格者の石井救急士の救急指導は、実に適切明確・緊張感あり具体的で、しかも時折、ユーモアを交えて受講者を飽きさせず，受講集中力を高めながらの内容であった。地元の方々とのこのような交流も、得難い森林地域の社会性の構築活動だと思う。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

4月28日

この日は植樹した苗の見回りと手入れ、前回の巡回で目印の竹が抜かれたり、 苗が紛失したりのトラブルが見られたので、植樹した時の三か所の班編成を復元した 形でより詳細なチェックを行いました。気付いたことは、最初に植えたヤマザクラには、 世代交代のための植樹を実施したとのメッセージを添えた効果があるのか、 殆どがそのまま残っていたのに対し、メッセージを添えなかった苗木にトラブルが 発生していたことでした。沢山の人たちが集まるこの地域には、残念ながら一定の割合で不心得な人がいるのは仕方ないとして、メッセージを発信することによって、ある程度 のトラブル抑止効果があることが判明した訳です。今後の苗の管理に有効な指針を与え てくれたものと思います。（午後の総会で具体策が話合われました。）

湘南の森は今が一番美しい若葉の季節を迎えています。シャガの群落も満開の白い花 を咲かせていました。カキドオシの花も健在、ナルコユリもつぼみをつけ始めてい ました。私は確認出来ませんでしたが、エビネも花芽を付け始めているとのこと、 これからが楽しみです。

午後からは麓の万田に移動して、進和学園さんのご好意でお借りした万田ホーム の会議室で総会を実施しました。今年度から平塚市との協働事業が初めて開始され ることになり、財政的には苦しいものの、湘南の森は新しい局面を迎えます。ＪＦＩＫ会員の田中文一さん夫婦が入会され、万田在住でもあり、 ほぼ毎日のように歩いてくれるとのこと、頼もしい助っ人が登場して心強い限りです。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
さがまちコンソーシアムイベント報告

5月6日

このイベントは、相模原・町田地域の方々を対象とし、環境について親子で楽しく学ぼうとするイベントです。

午前中は晴天に恵まれ、たくさんのお客さんが来てくれました。その内容は、町田に来てくれた一般の方が、普段、森についてどう思っているかを聞くというものでした。ですので、模造紙に簡単なアンケート票を作成しその紙にポストイットで意見を書いてもらいました。また時間がなかったり、意見が特にない人には、好きか嫌いかなど簡単に種類分けした紙に投票だけしてもらうという手法をとりました。他に、森について知ってもらったり、興味を持ってもらうために、紙芝居を読む・絵本配布・木工作品の展示・簡単な説明を行いました。その中で私は主に紙芝居を読んだり、絵本配布、アンケートへの誘導を担当しました。

イベントに来てくれたお客さん方の客層は、小学生の親子連れ、お母さんとその息子さんで来てくれていた方々が多かったように感じました。小学生は大体6歳くらいの低学年の子が多かったです。他にも70代の男性、10歳11歳の兄弟だけで来てくれた方もいました。また、山主さんにも出会えることができ、今度その山に来ないか、とお誘いも受けました。

このアンケートに答えてくれた人数は、３７人でした。親御さんは答えてくれなかった方もいたのでもう少しいたかもしれません。

今回私はForestNova☆の活動に初参加でした。ミーティングではアンケートの取り方についての案が通ったことが本当に嬉しくて、当日のイベントもとても楽しみにしていました。アンケートも沢山の方が積極的に参加して下さり、意見をポストイットに書いてくれる方が殆どで驚きました。森好きの理由として、鳥が好きだから～というものが意外にも多く、他に虫は嫌いだけど自然は好き、など嬉しいことを書いてくれる方もいました。あとは、近くに公園がありそこに森がある、という親子連れが多く、身近で自然と触れ合っていることがわかりました。

今回のイベントで自分の森の知識量の少なさに悔しさを覚えたので、この気持ちを次回の山のイベントで発散したいと思います。まだForestNova☆に入って日は浅いですが、これから活動したい！と意欲が高まるイベントでした。

ありがとうございました。

芦田　梢（Forest Nova）

[報告３]
体験学校の感想、その１

5月20日

　私達東京都市大学咸研究室の生徒は５月２０日に相模湖にて、NPO法人「緑のダム北相模」、学生団体「ForestNova」、その他若柳・嵐山の森を活動拠点とする森林保護団体と共にフィールド演習を行わせて頂きました。私達は水質についての研究活動を、緑のダム北相模は間伐や枝打ち、下草刈り、養蜂等の活動、ForestNovaは学生団体ならではの面白みのある森林活動をしていました。それぞれの団体が別々の行動をとっていても、どこかで自然との共生という同様の目的を持ち繋がっていることで、他団体の活動や他団体との共同作業に感銘を受けることができました。このフィールド演習にて、他団体や先輩から享受されたことをしっかりと覚え、研究に活かせるよう頑張っていきます。

小林　瑛司
（東京都市大学環境情報学部）

[報告４]
体験学校の感想、その２

5月20日

　私は、初めて植林や下草刈りをしました。山を登って道の途中にある、森を見ていたりはしていました。でも、その森に手をつけるようなことは今まできっと一度もないと思います。ヘルメットをつけて、腰にのこぎりをつけて、急斜面で作業をするなんて、この部活に入っていなかったら、きっと一生そんなことはしないと思います。でも、私はこの部活に入りま

した。なので、これからは森であのような作業を何度もすると思います。

　私は自然とふれあうのが好きです。毛虫や変な生き物は好きではないけれど、これから森に入って行くにあたり、どうしても会わなければいけないものです。私はまだまだ未熟者ですが、これからの活動をとおしてもっと自然とふれあっていきたいと思います。

　私は森に行っていろいろなことを体験することができました。

　まず一つ目は木を根から抜いて植えることです。根から抜くときはなかなか抜けず大変だったけど、友達や先輩と協力してやれば抜けたので、協力することの大切さをしれました。植えるときはけっこうな急斜面に植えたので、すべって落ちそうなときもあったけど、先輩が助けてくれたりしてなんとか植えることができました。

　田舎の空気は都会の空気と違ってとてもおいしかったです。都会の空気には色々なゴミや排気ガスなどがあるので、そんなにきれいじゃないのだと感じました。森から帰ってくると空気がすんでいなくて、一瞬息が苦しくなりました。先輩もそう話してくれました。

　いつも自然にふれあう機会があまりなかったので、こうして自然とふれあえる環境ができ、この部活でがんばっていこうと思います。

杉並区立高井戸中学校生徒（１年女子）の感想を複数名分掲載しています。

[事務局からの
お知らせ、お願い]

上智大学ASF(オールソフィアンズフェスティバル)に参加しました

5月27日、上智大学の卒業生の集いであるオールソフィアンズフェスティバルに、杉並区立高井戸中学校地球環境部と参加し、大正時代の上智大学の校舎を本会の積み木で再現しました。写真でご紹介します。

都立中央図書館企画展示「東京駅ーよみがえる赤レンガ駅舎ー」にポスター出展

5月19日（土）から6月17日（日）まで同図書館で行われている企画展に杉並区立高井戸中学校地球環境部の生徒が制作した積み木の東京駅ポスターと本会の積み木のサンプルが展示されています。ぜひお立ち寄りください。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版